

地域福祉を考える会（Society of Study for Community Works）

## 令和4年度（2022年）活動・事業計画

### 基本方針

2016年9月に認定NPO法人を取得し更に地域福祉を考える会の活動・事業に対し責任を感じる次第であります。これからも認定NPO法人として質量ともにより高いレベルのNPO活動をすすめていきたいと思ひます。

世界に類をみない速さで高齢化が進む我が国。2025年には国民の4人に一人が65歳以上という社会を迎えることが予測され、今では時代に即した新たな介護保険制度の改正等も現実化してまいりました。

又、虐待・ネグレクト・学習障がい・ひきこもり・青少年犯罪の低年齢化などなど、少子化に伴って発生する様々な社会問題が増加の一途をたどっています。さらに、格差拡大による高齢者の貧困や子どもの貧困・教育の格差などの社会問題が顕著になっています。

地域福祉を考える会は、これらの社会問題に真摯に向き合い、社会的ニーズにこえ、地域福祉の水準向上のために、手を携えてまいりたいと思ひます。今年度は更に「人を孤立させない地域づくり」のまちをめざしてすすめてまいります。

### 1. 友愛電話サービス部会・活動計画

#### （1）活動の趣旨・目的

登録された一人暮らしの方や日中一人で話し相手がない方、介護をしている家族などに電話友だちとして週1回（月曜日午前・午後、木曜日午後）電話サービスを実施する。

社会福祉協議会と共催事業

#### （2）現状の課題と評価

近年さまざまな理由により、利用者が減少してきている。

現在実施している曜日がディサービスと重なったりして、今まで利用していた方がたが利用できなくなってきている。

#### ◎利用者を増やす方策

今まで社協や民生委員に対して友愛電話について説明し、一人暮らしの方や日中一人になる方にお知らせしてもらうように依頼してきた。

しかし高齢者が電話でお話することが近年オレオレ詐欺などの問題もあり、難しい状況にあるのか。利用者が増えない。

包括支援センターに依頼したり、各地区で実施しているミニサロン等でPRして利用者を増やしていく。行政機関、商業施設などにチラシを添付してもらう

#### （3）2022年度の活動計画

今後の検討課題

★コーディネーターの育成、若い世代に継承していく。

ボランティアを増やし、必要とされていることを自覚して電話をしていく。

ローテーションの割り振りも、話し合いをしながら組んでいく。

★状況が確認できたら、タイムリーに地域または社協、包括支援センターにつなげて行き、その人に必要なものを提供してもらうようにする。

★現在継続しているが、2022年度以降も消してはならないサービスでありたい。

#### 活動計画

毎週 月曜日（午前・午後） 木曜日（午後）の週3回実施

☆) 初級講習会 1～2回開催予定

☆ 友愛電話交流会 開催予定

☆ 利用者に暑中見舞い、年賀状を出す。（継続）

## 2. 子育てひろばきらきら・活動計画

### (1) 活動の趣旨・目的

子育てで戸惑ってしまう母親、子育て中の親子が気軽に集い、そんな子育てに関するさまざまな思いや疑問、心配事を「ひろば」に集まる人々とともに過ごすことで少しずつ解消できればとの思いで平成17年7月「子育てひろばきらきら」を開設

### (2) 現状の課題と評価

(課題) ○母親にとって子育ての不安感、負担感、また子どもがいろいろな大人・子どもとの関わりが少なくなっている現状でもある。

○「毎日続けてほしい・・・」という声もあり常設も視野にいれ検討しているが、場所の確保に難しい面がある。スタッフ（サポーター）のスキルアップと効率的な運営方法を検討。

(評価) ○きらきらひろばを始めて17年、地域の拠点として「話し相手がほしい」「子育ての仲間がほしい」「子どもの友だちをみつけない」様々なニーズの方々が集まってきています。利用者からは、広々とした場所でのゆったりとした気持ちで参加できる。又、サポーターとさりげない中から、何気ない日常会話がつくりだすことでお互いの信頼関係を深めている。

このコロナ禍で、他のひろばでは人数制限と予約制での利用が行われている中、きらきらでは予約がなく、広いペースで保護者の方から感謝の言葉を頂いている。

○市こども部 子育て支援課共催事業、(社福) 社会福祉協議会(小地域活動推進事業助成金)の支援と協力。

### (3) 2022年度の活動計画

子育てひろばきらきは（主に0歳～2歳）とその保護者のためのフリースペース。おしゃべりしたり、くつろいだり、情報交換したり、子育ての知恵や経験を交流できる【集う】場所として（母親支援）の趣旨を忘れることなく活動をする。

(ア) 活動日（火曜日：45回）/サポーター調整会議随時

(イ) お楽しみプログラム

- ・子どもの成長を見守る・・・手形づくり・お絵かき・おりがみ  
お話し会・・・読み聞かせ・手遊び・わらべうたなど（年12回）
- ・みんなで体操しましょう（ストレッチ体操とボクササイズ）
- ・☆季節の行事（ひな祭り・クリスマス他）
- ・外部ボランティア協力の充実

### 3. 成年後見部会・活動計画

#### (1) 活動の趣旨、目的

- ア 高齢者や障害者の方々が地域で安心して豊かな生活ができるよう財産管理及び身上保護等の成年後見業務を行う。また任意後見にも取組みより身近な活動に努める。
- イ 地域の頼りになる（信頼される）後見活動に努める。

#### (2) 現状の評価と課題

高齢者、障害者の権利擁護意識の高まりとともに成年後見制度の重要性が増してきている。伊勢原市社会福祉協議会にも成年後見・権利擁護推進センターが設置され、相談件数、受任件数とも増加している。当会でも2021年度に被後見人（新規受任・任意後見含）が2名増えており、現在も他法人からケース移管の依頼を受けている。今般のコロナウイルス感染状況の中対人支援が難しい状況ではあるが、身上保護は不要不急ではない大切な活動であり、感染対策を万全に後見活動を実施する。

#### (3) 2022 度活動計画

- ア 被後見人の確保とそのための関係機関への働きかけ  
各種会議の委員や研修会講師などの活動を通じて当会活動の周知を積極的に行う。  
また介護保険のケアマネージャー等にも制度の周知を図る。
- イ 成年後見申立に関する助言等の支援  
成年後見制度全般の説明や申立てや申立書類作成に関する助言、関係機関との調整など、制度に関する不安軽減や書類作成の煩わしさから申立てを躊躇している人に対して支援を行う。
- ウ 後見人の資質向上を図る取り組み  
コロナ禍の中公開講座等の実施や参加が難しくなっているが、WEB研修会などの機会をとらえ後見担当者個々で参加し資質向上を図る。
- エ 成年後見・権利擁護推進センターとの連携  
社会福祉協議会が運営する同センターの会議や研修に参加し研鑽を深めるとともに、情報交換を進めて被後見人の確保にもつなげたい。
- オ 任意後見制度の推進  
法定後見のみならず任意後見受任も進めて、使いやすい制度の推進と高齢者・障害者の権利擁護に貢献していく。

#### (3) 中・長期計画

持続可能な法人後見事業を目指し、将来計画として規模拡大と財政基盤の拡大に努め、受任件数の増加、会員後見人の増加を目標としたい

##### ア 後見人の増員

成年後見人養成講座修了者等から『実際の後見活動を行いたい』という希望が寄せられており、将来の被後見人の増加を見込んで後見人（会員後見人）の増員を図っていく。実際の後見活動に同行してOJTを実施し実務についても学んでいく。

令和6年には18名程度としたい。（現事務担当含め15人）

## イ 受任件数の拡充

後見人の増員とともに一人当たり2名を担当するとして、令和6年には38名程度まで増員したい。後見人が必要とされているものの、後見人の申し立てが難しい高齢者や障害者に対し、申し立ての段階から関わることにより制度利用の拡充を図っていく。

## ウ 地域の福祉施設との連携

高齢者・障害者の福祉施設の利用者について、施設ごと一括して受任することにより受任件数の増加と後見活動の効率化を図り、できるだけ被後見人の経済的負担を軽減するとともに当会の収益に関しても向上を図る。

# 4. 児童コミュニティクラブ事業

## 1. 課題と展望

### (1) 活動の趣旨、目的

保護者の就労及び長期療養等のため、放課後家庭において育成を受けられない市内の小学校（1～6年生）の児童に対して、安心・安全な生活の場を提供し児童の健全な育成と福祉を図る。異年令間の交流（遊び）を通して自主性、社会性、創造性を培うと共に、各自の身体能力の発達、社会性の発達、知的能力の発達に相応しい活動が出来るように支援する。

### (2) 現状の課題と評価

#### (課題)

- ・事務システムの合理化
- ・指導困難児童・支援級児童が増加とアレルギーのある児童、エピペンを所持している児童も増えている。
- ・子どもたちの成長への支援、個々の対応の仕方に難しさがある。
- ・支援員のスキルアップ（研修など）。

#### (評価)

- ・4児コミにパソコンの導入ができた。
- ・子どもたちは、様々な意味で成長しており、その成長に児コミの集団は良い影響を与えている場合が多い。
- ・大きな事故（骨折以上の事故）もなく、1年間を終えた。
- ・コロナ禍において行事のあり方に工夫し行う事により、多様な体験の場を提供できた。
- ・スキルアップのための研修(オンライン研修を含め)などに積極的に参加した。
- ・指導困難児童対応で学校と面談など調節する。
- ・コロナウイルス感染症対策の対応を継続して行った。

## 2 令和4年（2022年）度の活動計画

(1) 安全かつ円滑な運営に心掛け、子ども達が明るく元気よく多様な活動を楽しみ豊かな生活を行えるように努力する。

(2) 児童の心身の健康管理

児童と保護者ともに対話を心掛けることで、子どもの理解に努め、心の悩みを早期に発見し対処する。

(3) 保護者と共に「子育て参加」

働く保護者が豊かな気持ちで子育てを行えるように支援する。

保護者会の持ち方に関する工夫を行う。

(4) 避難訓練

4児コミ共通にして年4回（地震2・火災・不審者）以上、実施する。

(5) 運営委員会との連携の強化

(6) ボランティアの受け入れ（コロナウイルス感染症対策を徹底する）

支援員だけの子ども支援だけではなく、児童コミュニティクラブの名にふさわしい多様な外部ボランティアの受け入れ方法を検討し、受け入れ態勢を継続する。

(7) 代表者会議・ミニ代表者会議等予定

◎5月中旬・運営委員会対応 ・保護者会対応 ・前期の活動の計画と情報交換  
・夏休み対応準備

◎9月中旬・秋（後期～3月）のプログラム ・後期の活動計画と情報交換

◎1月下旬・入所説明会対応 ・新年度の支援員配置

◎3月中旬・新年度準備 ・春休み対策

### 3 2022年度業務受託児コミと児童数等（208名）

R4. 4. 1現在

児コミ名	設置場所	児童数(1年生)	支援員数 (市基準支援員数)
伊勢原第1児コミ	伊勢原小学校内	70(26)	9 (8)
伊勢原第2児コミ	板戸児童館2階	17(5)	5 (4)
比々多第1児コミ	比々多小学校内	77(27)	9 (7)
比々多第2児コミ	比々多保育園2階	44(16)	6 (6)

（支援員配置基準）25人以下の場合2人・26人以上40人以下の場合3人

### 4 児コミ開所日と時間

平日 放課後から18時30分（延長19時）

学校の休業日 土曜日、春・夏・冬休み など 8時～18時30分（延長19時）

（児コミ休所日 日曜日、祝日、年末・年始12/29～1/3）

※ 伊勢原第1コミ・比々多第1コミは2部屋で活動。（継続）

※ 伊勢原学区での土曜日の開所は合同で伊勢原小学校内の伊勢原第1で行う。（継続）

※ 比々多学区での土曜日の開所は合同で比々多小学校内の比々多第1で行う。（継続）

※ 春・夏・冬休みの期間、業者対応のお弁当配食サービスの実施（希望児童に対して）（継続）

### 5 支援員研修会等

◎スキルアップのための研修会（市／当会（アレルギー対応研修・AED研修予定））

◎放課後児童支援員認定研修（県）未定

◎放課後児童支援員資質向上研修（県）未定

## こども支援事業（１）

### いせはら みらいクルリンこども食堂

### こども食堂キッチン天（sora） & 朝ごはんだよ こども食堂

#### 1、趣旨

相対的貧困率は悪化しつづけており、2014年の厚生労働省の発表によると、16.3%であることが明らかになりました。教育格差、貧困の連鎖が広がっています。生活保護を受けている、もしくは、年収が生活保護費とかわらないワーキングプアの家庭で育つ子どもが、6人に1人いるのです。地域の子どもを、地域が見守り、学びや暮らしを有機的に支えるネットワークをつくり、子どもの未来を明るく変えていきたいと願っています。

現在、子供の6人に1人は貧困家庭にあると言われています。家計が苦しくて十分な食事がとれない子。家庭の事情で夕食は一人、コンビニ弁当やインスタントもので済ませてしまう子。心と体を育むはずの「食」が揺らいでいます。こうした状況の中、食の面から子どもに支援しようと立ち上げました。

#### <2022年度活動計画>

こどもに安心して食事をとってもらい、栄養のバランスがとれた食事の提供で食育を行う。こども食堂が食を通じ子ども囲んでみなさんとのコミュニティ（寄り添える）居場所になるよう努力する。「こども食堂 天sora キッチン」は創作料理「天（sora）」店の共催で開設しています。（子どもが調理を覚え食育の大切さを身近に感じてもらう）。

今年度、新たに様々な理由により朝ごはんを食べずに登校することもたちに「あさごはんだよ こども食堂」を開始する。

#### ●いせはらみらいクルリンこども食堂

初回開催：平成28年6月23日

料 金：大人300円、こども（高校生まで）100円

開 催：月2回（24回）

場 所：だいろくコミュニティ広場来るりん（伊勢原1-3-10）

スタッフ：23名（令和3年4月現在）

#### ●子ども食堂キッチン天（sora）

初回開催：平成31年2月24日

場 所：創作料理店天（sora）（伊勢原1-11-22）

指 導：庄司歴人氏他（天店主） 開催日：月1回

参 加：小学4年生～高校生（原則） 参加費：無料 スタッフ：10名

#### 新企画

#### ●あさごはんだよ こども食堂

目的：朝ごはんを様々な理由で食べずに登校してくるこどもに朝食を食べることによって、心身ともに健やかな成長への支援

開 催：毎月第4月曜日 朝7時～8時

参加費：こども50円、大人200円

場 所：いせはらふくじゅ（伊勢原1-20-6） スタッフ：10名（当番制）

## 子ども支援事業（2）学習サポートみらい・つなぐ

### ◇事業の主旨

生活が困窮している世帯の子ども他が適切に学習の習慣が身につくよう支援する。  
また、子どもや保護者が主体的に進路を考え、選択できるよう支援するとともに、子ども及びその世帯の課題を整理し、学習習慣づくり等を通して子どもの社会的自立を支援する。

### ◇目的：

学習支援サポート事業は「学習支援」「子どもの居場所」「保護者相談」を柱として進める。

◇初回開校日：平成28年9月7日

◇伊勢原市子ども学習習慣づくり支援事業として受託

◇学年：小学4、5、6年生・中学生（原則）

◇サポーター：一般9名、大学生12名

◇形態：個別・グループ指導

◇実施場所：いせはら市民活動サポートセンター他

### <2022度活動計画>

今までと同様に、一人一人の個に合った指導を心がけると共に、共に成長する姿勢をお互いに学び合い、関係性を築いていく。伊勢原市・市教育委員会・保護者と連携をしていく。引き続き、感染症対策には気を配りながら進める。

□ 児童生徒登録数（令和4年4月現在）

4年（2名）5年（2名）6年（2名）・中1（4名）・中2（7）中3（6名）計23名

□ 開催日：火曜日（4回）・金曜日（4回）

□ 時間：小学生 5時～6時30分

中学生 5時～7時45分

## 未来セミナー1

## 読書会 & 研修

### <活動方針>

□ 地域での暮らしや地域福祉をベースになる様々な社会動向を読書を通し、いろいろな立場から考え合う場所としての読書会並びに研修会をする予定です。

開催：隔月の土曜日

時間：14時～16時

場所：社協1階会議室他

1回目 5月7日（土）課題本 「非色」有吉佐和子著 参加12名

2回目 7月2日（土）課題本 「鳥類学者が鳥を好きだと思ふなよ」川上和人著

〈活動方針〉

「人生100才の時代」を迎え、元気に過ごせるよう歌（声を出す）をとおして健康に楽しいひと時をみんなで過ごす。童謡や・昭和の歌謡をみんなで歌い・パタカラ体操や笑うヨガなどで体を動かし心身ともに楽し一時を過ごす。そして「介護予防につながるような取り組み」を工夫しています。これからも「地域で高齢の方が気軽に行けて楽しく集まれる場所」として努力する。

場 所：シティプラザ1階ふれあいホール

日 時：毎月1回 土曜日 10時30分～12時

参加費：300円 指導者：古川 恵子氏

○伊勢原市介護高齢課との共催事業

## 7. 全体定例会・研修会開催活動・学習活動の強化

(1) 活動の趣旨・目的

会員相互間での情報交換(交流)や成果発表を行うと共に、講師を招いて講演などを考える。

又、一般市民対象に公開講座として開催することもある。

◎全体研修会・講演会・学習会を兼ねて随時計画する。

◎ニュースレター 年4～5回発行予定

## 8. 他団体と連携

(1) 市・社協 他団体への協力

(ア) 伊勢原市および伊勢原市社協などの行事に協力し、参加していく。

(イ) 市内奉仕団体・NPO団体関係等連携をとる。

(ウ) 伊勢原市道灌祭りに参加協力をする。

(エ) いせはら災害ボランティアネットワークに協力

(オ) サポセンフェスタに参加